



book

これからの歯科衛生士に求められる情報を驚くほど簡潔に凝縮！ 『歯科医院で働く女性のためのポケットブック』書評



『歯科医院で働く女性のためのポケットブック』
三木千津・編著（税込 3,570 円、小社より好評発売中）

初めてこの本を手にとったとき、「タイトルのとおり女性らしい外装だな。著者の人柄が出ているな」と思いました。そして、この本をすべて読み終えたとき、「この本は歯科衛生士、女性、医療人、社会人への応援ブックだ」と思いました。

“健口”から始める健康づくりが注目されるようになり、随分と時間が経ち、今では全身の健康づくりに健口づくりは欠かせないと、歯科衛生士の誰もが知っていることでしょうか。では私たち歯科衛生士の役目は、「健口づくり」だけでしょうか？ いえいえそれだけではありません。ヘルスプロモーションの観点からすると、歯科衛生士にできることは、まさしく「健康づくり」なのです！

この「健康づくり」を実践しようとするとき、歯科衛生士は何から学ばばよいのでしょうか？ この問いかけに答えてくれるのが本書です。これからの歯科衛生士に求められることが、本書に網羅されています。これからの歯科衛生士には口腔内だけでなく、とどまらない全身的な、更にはライフステージに応じた知識が必要です。本書は新生児から高齢者までの各ライフステージに対応できるように作られています。これらを大きく7つに分けて書かれていますが、各ステージの心身の特徴を歯科衛生士に役立つ内容として素早く理解できるように、驚くほど簡潔にわかりやすくまとめられています。

人は自分の通ってきた道は理解しやすいですが、これから通る道を理解するのは難しいです。まして

や未経験の事柄の質問に答えるなど高すぎるハードルです。私もかつて歯科衛生士としての経験が浅いころ、幼稚園児の母親に食事指導をする際に、「毎日手作りのおやつを作って食べさせてあげてください」と、教科書的な指導をして恥ずかしい思いをしたことがあります。本書の出生～12歳の章では、母親への保健指導を中心にQ&Aが盛り込まれており、「あるある！」と思うQuestionに、「こう答えればいいんだ！」と、自信をもって答えられるAnswerがついています。続く各ステージも女性ならではの目線で特徴が述べられ、知っているもなかなか言葉で説明しづらい内容も、エビデンスとともに簡潔にまとめられています。

なかでも特筆すべきは、妊娠・出産・成人期に起こりやすい女性特有の疾患・更年期を取り入れていることです。今まで歯科衛生に関する本でここまで女性のことを考えて書かれたものを、私は読んだことがありません。現在のところ、歯科医院で働く歯科衛生士は、まだまだ若い人が多いといわれます。自分が経験したことのない中年期・更年期を理解するのは至難の業です。患者さんに寄り添うことが求められる歯科衛生士にとって、今の自分とは違うステージを生きる患者さんの《こころ》と《からだ》を理解するには、本書で述べられているような情報は不可欠です。

本書を読み終えたとき、「自分のもつ引き出しが増えた！」と感じました。そして、患者さんのためだけでなく、自分のため家族のためにもなる本だと感じました。これからの自分や家族のライフステージを知ることができるからです。常に携帯して熟読し、またあるときは患者さんへの説明用の虎の巻として、歯科衛生士にとって必携の本だといえます。

最後に、臨床の第一線のリーダーとして多忙ながら、努力を積み重ねてこれだけの本をまとめられた著者に敬服します。そして、歯科医院で働く女性を応援する著者の、女性として、人としての魅力に惹きつけられます。これから歯科衛生士を目指す学生にも推奨したい一冊です。

（文・池田真己／香川県歯科医療専門学校・専任教員）